

「HDI と GEM に見る日本女性の地位向上と生活満足度 ～国際比較データ研究～」

山田清美

はじめに

国際連合開発計画¹⁾ (UNDP: United Nations Development Program 以下 UNDP とする。) は、1990 年から『人間開発報告書』を毎年発行している。『人間開発報告書』(Human Development Report) は、人々がどのような生活をしているのか、人々の暮らしぶりを指数にして表している。すなわち、暮らしぶりのよさを人間開発指数(HDI: Human Development Index、以下 HDI とする。)としている。また 1995 年より政治的及び経済的分野での女性の活躍機会の到達度を指数に表したジェンダー・エンパワーメント指数(GEM: Gender Empowerment Measure、以下 GEM とする。)を追加している。

本稿は、HDI と GEM 指数を使って国際比較データについて研究する。2003 年度の HDI の日本女性のランキングは、175 カ国中 9 位、GEM は 70 カ国中 44 位である。HDI の上位国はノルウェー、アイスランド、スウェーデンである。GEM はアイスランド、ノルウェー、スウェーデンが上位である。HDI と GEM の過去 10 年間のデータを見ても上位は北欧、ノルウェー、フィンランド、スウェーデンが占めている。日本の場合 HDI は毎年上位 10 位以内に入るが GEM は年度によって変動し先進国としては低い。

HDI は三つの要素からなる複合指数である。①寿命、②教育、③所得(生活水準)である。すなわち日本は、①平均寿命は世界一であり健康や科学的技術及び医療の発達及び発展が進んでいる。②高等教育進学率も高く普及し識字率も高い。更に③所得能力も高い。つまり日本は、HDI は一般的に恵まれている状況にある。しかし GEM においては日本社会では、男女の格差があり政治的・経済的、意思決定の場において女性の能力利用や活躍は十分に発揮できていない状況にある。

本稿では、HDI と GEM 指数を利用して国際社会の中での日本の女性の地位向上と生活の満足度との相関性の国際比較研究を目的としているが現在、研究途中であり本稿では先行研究論文考察を中心とする。

1. 研究課題の妥当性

日本の男女格差が大きい分野は政治的及び経済的分野である。具体的には、①国会議席に占める男女の割合、②行政職及び管理職、専門職及び技術職に占める男女の割合、③勤労所得の賃金格差が男女の違いによって格差が大きくなっている。つまり GEM 指数を構成している分野は日本の男女格差が大きく更に日本だけでなく世界的にも多くの国で男女格差のある分野である。言い換えれば GEM 指数は男女格差のある分野の複合指数によって構

成されている。

日本の男女格差のある GEM 指数は年度によって変動はするが 20 番台から 40 番台にあって 10 年間ほぼ変わっていない。前進よりもむしろ後退している。伊藤陽一 (2001) の「ジェンダー統計をめぐって」のなかで「UNDP の GEM は構成要素に所得の高さを入れて、所得の男女差で割引いて、平均してしまっている。この所得を導入しているために日本の点数は大きく上がってしまう仕掛けになっている。——日本に関していうなら、これまで国会議員比率が国別には 100 位以下であったし、賃金格差は途上国を含めての順位でも最低レベルだろう。——日本は 100 位以下である」といっている。²⁾ 言い換えれば、日本の男女の賃金格差は途上国よりも格差が大きいということである。

日本国内での男女格差が大きい理由は一体何なのだろうか。なぜ、意思決定レベルに女性が少ないのか。女性が現状で満足しているのか否か、或いは別の社会的理由があるのかどうか本論の主要な問題意識である。

固定的なジェンダー関係がある要因、ジェンダー格差狭まらない要因は一体何なのか。更にジェンダー格差を狭める方法はあるのだろうか。あるとすればどのような根拠によって狭まったといえるのかについて探求することが主要な研究テーマである。

これらの問題意識を探求するためにジェンダー格差に対して統計調査をもとに数値をもって示すことができるのは、UNDP が使用している HDI と GEM であり、手法的にもここでこの課題に答えるための妥当性があると考える。

2. 人間開発と潜在能力

(1) 人間開発の定義

UNDP (1998) 『人間開発報告書』による人間開発とは、「人々の選択の幅を広げる過程のことである。選択肢の拡大は人間の能力と機能を向上させることによって達成される。」³⁾ つまり、人間開発というのは、先進国が発展途上国に対して経済の利益だけを目的にして開発しているのではなく、人間の本来ある能力や手段などを使って人々が生活するために必要な情報や選択がなされるべきことが開発である。「人間開発とは、HDI の基本である①寿命、②教育、③所得(生活水準)の三つの複合指数を含めて更に人間開発に重要な指標である。人々の選択の幅を広げ、選択できる能力及び働きは、つまり生まれた年度の平均余命を全うして生きられること、識字能力から必要な知識及び情報を得る教育がなされること、経済的な自立ができる手段や方法を得ていること等人間開発の概念は HDI よりもずっと広範囲である。すなわち人間開発は自尊心、エンパワーメント、地域社会への帰属意識の享受まで多岐に渡っている。」⁴⁾

また同報告書 (2001) の人間開発の定義は、「人間は、国家にとって紛れもない財産である。よって、開発は人々が大切だと思ふ生活が送れるように各自の選択肢を拡げることである。」⁵⁾

国家の財産は国民であり国民の生活が国民によって大切に思われるように選択肢を自由に自分の意思で選ぶことができるようにする過程が人間開発である。しかし、人間は多様であり、選ぶことが自由にできる人と選ぶことができない人がいる。また、選ぶことができたとしても選択したものを充分に行使できない人もいる。選択の自由は、生活水準とは直接結びつかない場合もある。選択は一つの重要な機能として捉える。アマルティア・セン⁶⁾は次の様な例を挙げている。「機能としての断食は、単に飢えることではない。断食とは、他に選択肢がある時に飢えることを選択することである。」⁷⁾

(2) 機能と潜在能力

ここでの「機能」とは、UNDPの『人間開発報告書』に所得の増大ではなく、人間が基本的な権利、選択の機会、そして可能性をどれだけ獲得しているか提起されたアマルティア・セン(Amartya Sen 以下センとする。)の著書、(1999)「不平等の再検討」—潜在能力と自由—の中にあることばである。このことばについて訳者は以下の様に副題の「潜在能力」について説明をしている。‘capability’の英語は、「潜在能力」と日本語に訳されている。この‘capability’には、能力、権限、才能、手腕、可能性、伸びる素質、将来性、性能、可能出力(電算用語)などの日本語の意味が含まれるが、本書の訳者によって「潜在能力」とは、「機能」の集合であると解釈されている。以下、同書より引用する。

『潜在能力』は『機能』の集合として表される。「機能」とは、人の福祉(暮らしぶりの良さ)を表す様々な状態(〇〇であること)や行動(〇〇できること)を指す。例えば、「適切な栄養をとっている」「健康である」「教育を受けている」などである。⁸⁾

すなわち潜在能力とは、ある人が選択することのできる機能の集合である。また所得や資産を使用することによって可能になり、何ができるかは社会のあり方からも影響を受けるということである。直接人の生活や行動に関わる機能によって、人間の多様性により深刻になる。例えば適切な栄養をとっていること、健康でいること、及び教育を受けていること等の機能は社会のあり方からも影響を受ける。差別を受けていればそれだけ潜在能力が小さくなり行動の自由も小さくなる。⁹⁾また訳者はセンの同書で、「‘well-being’とは、個々の福祉、「生活の良さ」であり暮らしぶりの良さであるとしている。また生活とは、相互に関連した「機能」(ある状態になる、或いは何かをすること)の集合からなっていると見なすことができるとしている。」¹⁰⁾

(3) 本質的な自由と道具的自由

潜在的能力のアプローチとして、センは人間にとって基本的に二つの自由があるとした。一つは本質的な自由でもう一つは道具としての自由である。

- ① 本質的な自由とは、飢餓・栄養失調、病気や若死にという欠乏状態を避ける能力をもち、それらを自由に行使できる自由であること、或いは識字や計算能力、政治参加、言論の自由など人間の自由を拡大するプロセスである。

② 道具としての自由とは、人が生きていく上での様々な機会を拡大するために重要なもので、(i)政治的自由、(ii)経済的便宜、(iii)社会的機会、(iv)透明性の確保、(v)保護の保障が挙げられる。これらの自由の確保が開発においては、最も重要なことになる。」¹¹⁾

すなわち(i)政治的自由とは、意思決定の場への参加、言論の自由、表現の自由等である。(ii)経済的便宜とは、労働参加であり、女性が男性とともに対等な人間関係を労働環境において形成できるか否かということである。また(iii)社会的機会とは、(v)教育における平等な機会、教育内容、研修機会、資格付与などがある。また(iv)雇用機会均等、さらには財産取得機会、所有の機会、信用貸付(クレジットによるローン)などを受ける機会などが考えられる。(iv)透明性の確保とは、社会の各領域の情報の公開、情報へのアクセス権がある。例えば男女賃金格差、昇進、昇格、地位などについての情報の公開及び国の予算配分、支出実態の公表等も含まれる。

「医療と教育をすべての人に保障する国は全国民の寿命の長さと生活の質において、大きな成果を達成することができ、また、人間開発の成果は生活の質の直接的向上をはるかに超え、人々の生産能力の増強を通じ、経済成長につなげることができる。」¹²⁾

例えば、政治的自由とは、女性がその生涯において、センのいう二種の自由を確保するには、まず、生活のための女性の主体的かつ能動的な能力つまり「行動する主体」となることは困難であろう。「行動する主体」は、女性が力をつけていく上で重要であり、また「行動する主体」は具体的には所得稼得能力であり、つまり家庭内外での経済的役割の獲得が必要であり、そのためにはまず、基礎的識字能力と職業就労を可能とする教育、自己名義の財産所有権などの能力が必要である。

開発途上国では、能力を女性が身につけていくことは、女性自身の問題解決だけではなく、女性の識字率が上がることによって、教育水準が上がることにつながる。途上国では女性による産児調節も可能になり世界人口の削減のために有用である。¹³⁾つまり女性・男性両性の生活の質が高められかつ子供の生存率が高まるということにつながる。

日本の場合は、日本社会における女性の教育レベル、学業終了後の職業的スキルレベル、就労、職業的地位、役割、賃金、福祉・保険等の条件が検討されねばならない。

さらに道具的自由の確保のためには女性の政治的、経済的、社会参加とリーダーシップを適切に認識することが重要である。この点に注目したのが、GEMであり、女性の能動的な力の指数化を試みたのがGEMである。

(4) 人間開発指数の定義

『人間開発報告書』は1990年版から人間開発の尺度として人間開発指数を発表している。人間は多様であるため多様な人々がいれば、当然それぞれの側面も同じものであったり、違ったものであったりする。よって一定になる尺度が必要である。人間は多種多様な人種であり、多様な文化、社会があるから指数の基準の統一性は困難である。

人間開発の指数には、経済学だけでなく、欠乏を避けることを選択できる能力の開発による個人の自由と自立の獲得という要因も含まれている。

人間開発指数は、多様な概念としての自由を取り扱う指標であることから、あらゆる人々の合意を得られるもではなり得ないというある種の矛盾を内包したものだということには留意する必要がある。

UNDP は、人間開発指数 HDI の概念として、人がどう生きているかという状態を表した人の暮らしぶりや良さを表す様々な状態や行動を機能として捉えている。すなわち人間らしく生きること、生活することができるか否かということの追求である。

指数は、UNDP が現実に利用可能な各国のデータを集積し目に見える形で提示したものである。

人間開発指数には HDI 及び GEM などの他にジェンダー開発指数 (GDI: Gender Development Index、以下 GDI とする。) と人間貧困指数 (HPI: Human Poverty Index、以下 HPI とする。) の指数がある。つまり、人間開発における複合指数には、まず① HDI があって、次に②ジェンダー開発指数 (GDI: Gender Development Index 以下 GDI とする。) がある。③1995 年より GEM 指標ができた。④更に人間貧困指数 (HPI: Human Poverty Index、以下 HPI とする) がある。

(5) 人間開発指数 (HDI: Human Development Index、以下 HDI とする。)

HDI とは、センのいう本質的自由に対応する部分を統計的に指数化したのが、開発段階で必要とされる最も基本的な能力である。再度繰り返すが①人々が長命で健康な生活を送り、②知識を持ち、③人間らしい生活水準に必要な資源を利用でき及び④地域社会の活動に参加できる能力である。HDI 及び GEM を研究するということは、人間として自尊心をもっていられること、社会生活に参加できること、或いは回避できる病気にかからないこと、早死にしないこと等が人としての生活のなかでどれだけ達成されているのか、国民全体の平均的な状況を表している。人間の基本的権利 (生きること・生活すること) としての根本の機能が生活にどれだけ繁栄しているのか、また機能 (機会) が選択できる生活状況であるか否かということの追求である。言い換えれば、人間として生きること・生活することができる権利や機会をどれだけ可能になっているのかということをも HDI は基本としている。第一に寿命の複合指数でありこれは、生まれた年度の平均余命、および保健・衛生の普及率を含む複合指数である。

①人間開発測定

人間開発の四つの基本的側面として、寿命、教育、基本的生活資源、そして地域活動参加について各国の平均達成度を測定したものである。所得は、人間らしい生活水準を示す代替値としている。

HDI 第二に教育達成度の指数は、個人が受けた初等教育・中等教育・高等教育の総就学率および 15 歳以上の成人識字率を含む。第三に所得の複合指数とは、国民一人当たり

の GDP と購買力平価の米ベース・ドルである。

つまり HDI というのは本質的な、寿命、教育、所得の自由の保障であり、経済的な富の集積のみではなく、人間の潜在能力の開発であるという価値観を指数という統計数値に置き換えるという試みなのである。

言い換えれば、経済的な富みではなく、世界の各国がどのような生活状況にあり、人々は個人の尊厳を守られた生活をする事ができているのかということが問われるものである。つまり、山内・金谷が「GEM を用いたジェンダーの国際比較とその問題点、」論文で指摘しているとおりの「人間開発指数は、これまで十分に注意を払われていなかった経済的な富以外のところにある不平等の実態に大きく目を向けさせるため、データ収集上の制約や、世界の各国、各地域で、潜在能力や自由についての評価や価値観が多様化していることを前提に、様々な議論を呼びかけるきっかけとして作成、公表された。」¹⁴⁾

このような異文化間比較を国際比較のための共通指数を既存の統計指数の複合によって創出することによって、世界各国による、価値観の違い及び多様化はあるものの、共通指数によって数値比較をし、人々の関心をひきつけ、注目させるという効果は評価に値する。しかしながら、この方法もメリットのみではなく、山内・金谷（2002）の指摘どおり、HDI は、「多様な概念としての自由」を正面から取り扱う指数であることから、解釈にも多様性があり、あらゆる人々の合意を得るものではないと批判をしている。」¹⁵⁾ 国の開発の度合いを測定する尺度として、1人当たり GDP、平均寿命、就学率、識字率を基本要素として、これらの独自の数式に基づいて HDI として指数化したことに始まる。

(6) ジェンダー開発指数 (GDI : Gender Development Index 以下 GDI とする。)

GDI とは、HDI と同じ側面の達成度を同じ指標を用いて測定するが、女性と男性の達成度における不平等を考慮したものである。基本的な人間開発においてジェンダー格差が大きければ大きいほど、その国の GDI は HDI と比較して低くなる。「GDI は、ジェンダー平等を見るために割引あるいは下方調整した HDI である。」¹⁶⁾

例えば、HDI の構成要素である寿命、教育、所得のそれぞれに存在する男女間の達成度の不平等を計算し、算出される。基本的な人間開発においてジェンダー格差が大きければ大きいほど、数値は低くなる。このように男女の間に女性が下位にある社会が多いために、下方修正した HDI が GDI となる。

(7) ジェンダー・エンパワーメント指数 (GEM : Gender Empowerment Measure、以下 GEM とする。) GEM は、女性が政治及び経済活動に積極的に関与できているかどうかを明らかにするものである。政治的、経済的参加と意思決定の重要分野におけるジェンダー不平等を測定すると定義している。

GEM は、女性が国会議席に占める割合や、議員、上級行政職・管理職、専門職・技術職に占める割合、また経済的自立を反映する指標として、勤労所得におけるジェンダー格差を追及している。GDI と異なり、GEM は特定の領域における機会の不平等を明らかにする。①国会議員の男女の比率、②行政職・管理職及び③専門職・技術職等の全体に占める女性のパーセント率と、④一人当たりの GDP 勤労所得割合が用いられている。

(8) 人間貧困指数 (HPI : Human Poverty Index、以下 HPI とする)

HPI とは HDI が人間開発の達成について一国の全体的な前進を測定するのに対し、HPI は、前進の分配状況を反映するもので、依然として存在する剥奪状態の未解決の部分測定する。HPI は、HDI と同じ基本的な人間開発の側面における、剥奪状態を測定する。¹⁷⁾「HPI は開発途上国向け (HPI-1) と先進国向け (HPI-2) が作成されている。先進国向けに指数が別に考案されたのは、社会や経済状況によって人間の剥奪状況が異なるからであるが、また先進国の非常に良く整備されたデータを有効に生かすためでもある。」¹⁸⁾

① HPI-1 とは、HDI と同様の基本的な人間開発の側面において、剥奪状況を測定するものである。「40 歳まで生きられないであろう人の割合」、「読み書きのできない成人の割合」、保健医療サービスおよび安全な水を利用できない人の割合と低体重児の割合によって表される「全体的な経済資源供給での公的私的な剥奪状況」が、変数として使用されている。」¹⁹⁾

剥奪状況とは、貧困によって選択の幅と機会が全く与えられないということの意味する。例えば、貧困とは、物質的な豊かさに必要なものがないというだけでなく、自尊心や他者との関係が破壊されることである。

② HPI-2 とは、HPI-1 と同様の三つの側面に加え、社会的疎外という新たな側面に注目したものである。「60 歳まで生きられないであろう人の割合」、「日常生活で役立つ程度の読み書き能力のない成人の割合」、「所得貧困の人の割合 (可処分所得が中間値の 50%未満)」、「不参加あるいは疎外として、労働力に占める 12 ヶ月以上の長期失業率」が変数となる。

社会的疎外とは、収入が無いことや十分な収入が得られないことから、大勢の人びとが地域の文化・社会・スポーツ活動に参加する機会を奪われている。貧困層や失業者は社会的排斥や疎外の一歩の犠牲者である。貧困によってホームレス、スラム街で暮らす人、或いは、先進国の失業は、失業した人は徐々に社会から疎外される。精神的に辛い状態になる。交通費も捻出できない、学歴の低さや今ある機会を積極的に利用しようという気持ちが奪われる。これを解消するには、社会的障壁や孤立の打開するために、環境の整備として、インターネットに接続してサービスを利用できるような対策が必要である。

3. 指数分析における先行研究

ここでは先行研究の一つである、山内直人・金谷信子（2002）「GEM を用いたジェンダーの国際比較とその問題点」では GEM の男女の能力を生かす機会の相違と、どの側面を国際比較することによって有意なジェンダー格差比較が可能かについて GEM 信頼性および頑健性とともにもその問題点について分析評価している。ここではこの研究論文について詳細に考察する。

(1) 先行研究による HDI の評価

データそのものは、政府が発表したデータ研究が現実の社会にどのように影響があるのか、或いは国勢調査を含む統計は真実を伝えているのか等統計自体の評価が取り扱いとして問題が含んでいるが、HDI の問題点として伊藤陽一以下のように言っている。

「第一は、寿命、教育的達成、所得という 3 要因（変数）に限って取り上げた根拠が不明確である。——第二に、所得が指数構成において、3 分の 1 のウエイトしか与えられていないことは所得の軽視である。第三に、所得を算入する際に、GDP が境界値を超えたときには割り引かれている。この根拠が不明である。第四に、ジェンダー差、一国内での不平等度が取り入れられておらず、一国レベルの平均計算に終始している点は問題である。²⁰⁾

(2) 先行研究による GEM の評価

山内・金谷（2002）によると UNDP が HDI 指数を公表する前は経済的成長中心の価値観であったが、人間開発という新しい概念の導入により、分かりやすさと広範さを優先させ、更に GEM に対しても男女間不平等の実態を客観的に数値化したことに対して評価に値する」としている。更に「部分的にせよ序列化を試みることは、ある一面の真実の姿を表す可能性もあり、何かの重要な問題に気づかせるきっかけをつくることもある」と評価している。²¹⁾

(3) HDI と GEM の問題点

指数とは現実の一面しか捉えていないものであり、ジェンダー格差の計測方法に改善の余地があるという問題指摘が山内・金谷（2002）によってなされている。

すなわち、その問題指摘の第一は山内・金谷（2002）論文によると国会議員の男女の人数についての指数と男女の勤労所得の等分布指数は、GEM 値の順位が低下するにつれて低下する傾向であるといっている。国会議員の等分布指数と男女の推計勤労所得の等分布指数が GEM 値各国順位にかなりの影響力をもつことが分かったとしている。²²⁾

現在のところ GDP (PPP US\$) が大きくなると GEM 値も高くなる傾向が強い。つまり、人間開発の上で必要な自由を確保するためには、経済的な豊かさが不可欠なのである。言い換えれば、経済的豊かさを達成した国は国会議員および、意思決定機関に男女格差

が縮小する可能性が高いといえる。しかし、この点において日本独特の指数を示す。すなわち、先進諸国のなかでも GDP は高いが国会議員や高官・企業における管理職に占める女性の割合が極めて低いことから、これらの指数の等分布指数も際立って小さい。

その背景には、全体的な所得の高さがあり、GDP も高いために、男女賃金格差があるものの、全体に GDP が高く、賃金レベルが高いために、賃金の等分布指数では各国に比べて高くなっている。

これまでの GEM 研究の限界としてデータ入手の障壁及び現存するデータの質や量に、国毎に相違があり、既存データの質に GEM 指数結果は大きく左右されている。

今後の課題

第一に実際の国際データ比較をすでに紹介した指数によって行い、その意味を考察する。山内・金谷論文は他にも多面的な指数考察及び指数評価を行っており、それらについても検討をする。

今回の発表は先行研究の指数解説とその妥当性の考察にしぼったが、今後の本研究の主要な課題となる日本の女性について国際比較した指数の現状と問題点を紹介しておきたい。

4. 日本の HDI と GEM の世界ランキング

(1) 日本女性の地位

日本の女性の社会的地位について国際比較をすると、経済的豊かさにもかかわらず、男女間の格差が顕著に大きいことが指摘できる。以下に示すのは国連開発計画刊行の報告書にある統計である。

(資料表 1)

年	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
順位									
HDI/参加国	3/174	3/137	7/175	8/174	4/174	9/174	9/162	9/173	9/175
GEM/参加国	27/116	37/104	34/94	38/102	38/102	41/70	31/64	32/66	44/70

出典：UNDP 「人間開発報告書」 <http://www.undp.or.jp/> をもとに一覧表を筆者が作成

HDI の上位国にはノルウェー、アイスランド、スウェーデン、GEM の上位国はアイスランド、ノルウェー、スウェーデン、デンマークである。なぜ日本の HDI は 9 位、GEM は 44 位なのか。その理由を検討するとまず、第一に HDI では、長寿、教育の成人識字率、所得が他の国より達成されている。第二として GEM は男女の賃金格差がある。意思決定の場に女性が少ない、更に専門職・技術職に就く女性は少ないなどが指摘できる。

(資料表2)

主な国の HDI の順位と GEM			
HDI 順位	国名	GEM 値	GEM (順位)
1	ノルウェー	0.837	2
2	アイスランド	0.847	1
3	スウェーデン	0.831	3
4	オーストラリア	0.754	11
5	オランダ	0.794	6
6	ベルギー	0.695	15
7	アメリカ	0.760	10
8	カナダ	0.771	9
9	日本	0.515	44
10	スイス	0.720	13
11	デンマーク	0.825	4
12	アイルランド	0.683	16
13	イギリス	0.675	17
14	フィンランド	0.801	5
15	ルクセンブルク	—	—
16	オーストリア	0.782	7
17	フランス	—	—
18	ドイツ	0.776	8
19	スペイン	0.709	14
20	ニュージーランド	0.750	12

(出所) 国連開発計画『人間開発報告書2003年版』をもとに一覧表を筆者が作成

※HDI、GDI、GEMの各計算方法は本稿では省略する。

HDIは世界第1位、GEMが世界第2のどちらの指標も世界的に高位であるノルウェーでは、北海油田と天然ガスによって経済が良好であり、失業率も4%以下であり、保険や年金システムが確立されている。医療費は、完全無料化され、付き添い費用まで国が負担している。²³⁾ また、ノルウェーは、デンマークに次ぎ、世界で2番目に同性同士の法的婚姻関係を認めている。²⁴⁾ 様々な分野で先進的なノルウェーではあるが人々の生活の満足度はどうなのであろうか。今後の研究で探求する。

注

- 1) 国際連合開発計画、以下国連開発計画とする。
- 2) 『ジェンダー統計関係論文等（日本）集成 一No.3』：（GSG 研究参考資料 No.3） 2003年3月 p.144
- 3) 国連開発計画（1998） UNDP 『人間開発報告書』 日本語版 国際協力出版会 p.20
- 4) 同上 p.20
- 5) 国連開発計画（2001） UNDP 『人間開発報告書』 日本語版 国際協力出版会 p.12
- 6) 人物紹介；アマルティア・セン（Amartya Kumar Sen 1933-）
1933年インド・ベンガル地方に生まれる。1959年ケンブリッジ大学トリニティ・カレッジで経済学博士号取得。ケンブリッジ、デリー、LSE、オックスフォード、ハーバード各大学教授を経て、1998年よりケンブリッジ大学トリニティ・カレッジ学寮長をつとめる。1998年ノーベル経済学賞を受賞。（アマルティア・セン A.（1999）池本幸生（他訳）『不平等の再検討』- 潜在能力と自由-より）
- 7) アマルティア・セン A.（1999）池本幸生（他訳）『不平等の再検討』- 潜在能力と自由-p.73
- 8) 同上 Pp.v-vi
- 9) 同上 p.vi
- 10) 同上 p.v
- 11) 山内直人；金谷信子(2002)「GEMを用いたジェンダーの国際比較とその問題点」p.5
- 12) 同上 p.5
- 13) 同上 p.6
- 14) 同上 p.7
- 15) 同上 p.7
- 16) 国連開発計画（2000）UNDP 人間開発報告書 日本語版 国際協力出版会 Pp.23-24
- 17) 同上 p.24
- 18) 同上 p.24
- 19) 同上 p.24
- 20) 『ジェンダー統計関係論文等（日本）集成一No.3』：（GSG 研究参考資料 No.3）2003 p.228
- 21) 山内直人；金谷信子(2002)「GEMを用いたジェンダーの国際比較とその問題点」p.14
- 22) 同上 p.18
- 23) 法政大学大原社会問題研究所 「大原社会問題研究所雑誌」543 2004.2 p.55
- 24) <http://norway-yumenet/info/pipi.kouensum.htm>

参考文献

- 国連開発計画（1995～2003）UNDP 人間開発報告書 日本語版 国際協力出版会 年刊『ジェンダー統計関係論文等（日本）集成 一No.3』：（GSG 研究参考資料 No.3） 2003年3月
アマルティア・セン A.（1999）池本幸生（他訳）『不平等の再検討』- 潜在能力と自由- 岩波書店
法政大学大原社会問題研究所 「大原社会問題研究所雑誌」543 2004.2
統計研究参考資料 No.40（1993）「インストローと女性に関する統計」 法政大学
日本統計研究所
女性研究者の会・京都（2002）「京都婦研連だより」 第67号(2002.11.18)

先行研究論文

山内直人・金谷信子 (2002) 「GEM を用いたジェンダーの国際比較とその問題点」

大阪大学経済学

ジェンダー統計研究グループ (GSG) 法政大学日本統計研究所 (2002) ジェンダー統計関係論文等 (日本) 集成 No.2 GSG 研究参考資料 No.2

ジェンダー統計関係論文等 (日本) 集成

ジェンダー統計研究グループ (GSG) 法政大学日本統計研究所 (2003) ジェンダー統計関係論文等 (日本) 集成 No.3 GSG 研究参考資料 No.3

23. 補論 伊藤陽一 UNDP の HDI およびジェンダー関連指数の問題点 P
p. 226-232

参考インターネットサイト

国連開発計画 URL : http://hdr.undp.org/reports/view_reports.cfm?type=1